

新刊  
紹介

"I love my books as drinkers  
love their wine; The more I  
drink, the more they seem  
divine."

吉川秀造編「近畿郷土村落の研究―丹波国馬  
路村―」同志社大学人文科学研究所、A5  
判三四二頁、非売品。

本書は同志社大学人文科学研究所第三研  
究八近畿地方村落の総合的研究∨が昭和三  
十四年以来取組んできた京都府亀岡市馬路  
町を対象とする共同研究の成果である。昭  
和三十一年馬路町自治会から借用した江戸  
中期より昭和期に至る膨大な史料を中心  
に、歴史学の分野、主に祭祀慣行の分析を  
手がけた民俗学の分野、明治以降の「家」  
を問題とする社会学の分野の三者が共同し

て、江戸中期から現在に至る一個の村落の  
動態を追求している。本書の構成は第一章  
郷土村落の構造、第二章 郷土支配の動  
播、第三章 各層同姓祭祀とその推移、第  
四章 明治以降の社会構造の変貌、附論  
郷土制に関する諸研究、であり、兼任研究  
員吉川秀造、井ヶ田良治、秋山国三、安岡  
重明、竹田聰洲、松本通晴、伊藤規矩治、  
岡光夫の各氏が執筆している。

馬路村には江戸期より一貫して郷土身分  
を誇る人見・中川の両苗による村落支配が  
存在し、これが馬路村の歴史の縦糸となっ  
て、両苗から疎外された階層との対立が領  
主支配、地主と小作、入会山の用益権、祭  
祀権、身分(家格)、家族構成等種々の問  
題を横糸として村落史を織りなしている。  
そして当村は一般的に近畿地方の村落とい  
う観点に立つ時、近畿村落の先進性という  
概念は通用せず、むしろ停滞の諸条件を内  
包する村落と結論づけられている。口丹波  
には馬路村を典型とする封鎖的停滞的特質  
をもつ村落が多数存在するが、本書はその  
特質を剔出した点で評価されると同時に、  
史料の制約から不明のままに残された江戸

中期以前の村落構造は、本書にひき続き研  
究対象となつてゐる丹波山国地方の研究成  
果に期待がよせられる。  
(仲村)

中井汲泉著(校友「わびすけ」主人)「夢十  
夜」盛岡・岩手日報社、大型版、オフセ  
ット七、グラビア十六葉、随筆六二頁、定  
価並製一、〇〇〇円。

著者、汲泉さんは若い日に、「東北の雪  
はきれいだよ」と聞かされて、啄木ゆかり  
の盛岡中学に赴任。中学の画の先生として  
の勤務ぶりは知らないが、ここ北上川のほ  
とりで暮すこと三十年。盛岡の自宅が焼け  
て見舞の一升ビンが並んでいるのを尻目に  
「火事も悪くないナア」とつぶやいたとか。  
伝説にちがいない。南部絵の普及を志し  
て、すぐれた民芸品、染絵の手法をおこ  
し、また興おもむくままに南部の茶釜をつ  
くる。このたび盛岡中学の教え子たちが、  
恩師の夢を刊行。題して夢十夜となる。  
汲泉後記によると、「若い頃、夢でプラス  
バンドに加わり演奏したのであるが、私は  
生来音痴、音楽には縁がないみただが、  
次々と湧いて出る新曲のメロディーが面白

くて音譜で残したかったけれど、お玉杓子を知らないのので遂に残らなかった。中年、漱石の夢十夜に逢い夢もまた文になると教えられて以来、起き直って夢を書いて置いた。夢十夜と題する所以である。老年になつて何もかも忘却してしまい、たわいもないが今回盛岡の教え子、水弟達や、辱知雲兄諸士が私の夢を刊行して下さい。考えてもみなかった望外の幸福である。」と。とにかく近来にないたのしい本である。(一)

雪だべか

花だったべか

夢だべか

教え子のために

国見温泉碑文から

上出雅孝著（校友、校友会ニューヨーク支部

長）『桑山仙蔵翁物語』京都・淡交新社、

A5判三三三頁、定価九〇〇円。

ニューヨーク在住の上出雅孝氏の新著

『桑山翁物語』の寄贈があった。著者上

出氏は永年の知友であり、著者の主人公は

ニューヨーク日系人間に知られた人物。ゆ

つくり拝読さしてもらう机の上に飾っていが、そのうちに流行のフルーに罹りし。週間余り社を休んだ。そんな訳で熟読するまでにタイムがかかったが、読み出す書中の人物と文章に引きづられて遂に一夜で読み終った。全頁三百三十頁。本書は一九〇一年の春新潟の片田舎からアメリカに飛び出し、ニューヨークの日本一ミツシオンに旅装を解いた一青年が六十二年間あらゆる試練の中に耐え忍んで日本人としての真価を發揮し、四人の子供には大学教育を授け、事業には成功し、社会には貢献し、人々からは敬愛されている。一庶民桑山仙蔵翁の過去半世紀に余る在米生活を描き出したもので読む者にはひしひしと胸に迫るものがある。それに著者上出氏は有名な文家である。これに著者上出氏は有名な文家である。これを纏めるためには半年余りも毎週数回面談して克明にノートを取って書き上げたものだといふから、普通の伝説などに見るような理想化した人間像でなく、桑山仙蔵翁の生地そのままが滲み出されている。本書の如きは目下市民が計画中の在米日本人史一世物語りの中に重要な資料の一つとして用いられべきものである。

(昭和39年3月21日付サンフランシスコ日米時事紙)

松本仁助著「ドイツ語自由自在」東京・三修社、A5判二四三頁、定価五六〇円。

著者の松本氏は本学に奉職してから、ほぼ十年に近く、その間、ドイツに留学して先年帰国した新進の学究、これに助力した岡氏は教歴こそ少いが、本学の教職につく以前にドイツに留学してドイツ語を専修した有為の学究である。

ドイツ語は周知のごとく、学ぶ方もなかなか骨の折れるものだが、教える教師の方でも、どういう風にしてこの元来無味乾燥な初歩文法をうまく会得せしめるかについては随分苦労するもので、その点から私には、まず、この書がどういう行き方をするかに興味をもったのである。ここでは普通に行われているような、いきなり文法を生でぶつけるというやり方を避けて、きわめて初歩的な、基礎的な文をまず掲げて、それを説明することによって自然に文法を理解せしめる方法をとっている。この書の第二の特徴は、会話を特に重んじている点である。一般に外国語は会話から入るのが最

も自然であり、最もよく身につくものであるをことはよく判っていないながら、実際にはその方法はあまり行われていないのであるが、本書は徹底してこの立場をとっている。つぎに練習問題も、ごく易しいものを数多く当るように仕組まれている。うんと勉強するつもりで取組まないと、とてもついて行けない位の量である。まあこれ一冊をしっかやれば、だいたい、初歩の程度は十分と考える。だが、この書は普通の意味での参考書ではない。すなわち、判らない個所を十分に説明してもらえないというようなものでは決してない。理論や説明よりも、むしろ、実際にどんな使って行くところ、重点を置いていく。この書をご利用することによって、この表題のごとく自由自在にドイツ語がしやべれるようにでもなれば、また楽しいといふべきであらう。(社本)

国分綾子(文) 浜辺喜代治(写真) 著「続カメラ京味百選」京都・淡交新社、新書判二二一頁、定価三〇〇円  
申すまでもなく京都食べもの案内で、去

年十月に正篇を、本年三月にこの続篇を出した。正統合せて二百八軒を採訪、まさに足で書いた本である。推薦理由は本誌二月号の正篇紹介に尽したから重ねて述べないが、正篇に収録できなかった京都色豊かなものは大方収録された。たとえば愛宕鳥居本の鮎料理、清滝の栗めしほか。しかし、すでに収録されている申から、京都に不似合な悪趣味に属するものや一客四千元以上の大衆無縁の料理を省き、正味を安く食わせる古い京料理を掘出して加えるを一層よくなる。梅津の「橋平」(校友)などは、これという座敷があるわけではないが、少数の鮎通は知っている。店の裏座敷で食わず鮎は保津川の岩底に住む鮎に限り、塩麴、実に美味。こんなのをもっと掘出して加えるといふ。著者は同窓、出版企画者伊藤高勝氏は校友、淡交新社々長納屋嘉治氏も校友。同窓・校友協力の美しい本である。表紙の鳥居本鮎の宿のカラー写真が京郊散策を誘う。(T)

## 懸賞論文募集

同志社新島研究会では次の通り、懸賞論文を募集している。

題目 大学部門(四〇〇字詰 三〇〇〜四〇〇字)

○枚

次のうち一つを選ぶこと。

- 1、新島先生における自由の理解
  - 2、新島先生とキリストの教会
  - 3、新島先生と明治教育
- 中・高校部門(四〇〇字詰 二〇〇枚前後)

若き日の新島襄より学ぶもの  
応募資格 同志社各学校に在学中の学生生徒。

締切り 昭和39年10月31日(土)

送付先 同志社クラーク記念館

社史資料編集所内

同志社新島研究会

賞

大学、中・高校部門のそれぞれに1等、2等、3等(場合により選外佳作)の賞を出す